



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

長野県 長野市立信州新町中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和6年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
 オリンピアン自身の様々な経験を通して
 「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
 この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、
 日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学校2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピアンはJOCが選定
- 期間： 2024年4月～2025年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
 チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
 ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
 オリンピックの価値を生徒に伝え、
 オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

- **オリンピック**：長谷川 大悟 先生（陸上競技 三段跳）
【出場オリンピック／リオデジャネイロ2016大会】
- **期 日**：2024年9月10日(火)
- **ク ラ ス**：2年1組／運動の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ 準備体操



・陸上競技／三段跳でリオデジャネイロ2016大会に出場したと自己紹介。オリンピックバリューの3つの価値について、エクセレンスは卓越、全力を尽くす、フレンドシップは友情、チームワーク、リスペクトは敬意／尊重と説明し、これらを意識しながら運動の時間に取り組んでほしい。準備運動では、体の部位に番号を振り、指示された番号に合わせて素早く体を触る運動と、数種類のストレッチを実施。

○主運動 等



・主運動は混成リレーを実施(全2回)。たすきを持ち、走順によって走る方法を変えて、1走：走る、2走：歩く、3走：スキップ、4走：歩くの順で実施、班対抗で順位とタイムを競う。作戦タイムを設けて走順を決めた後、1回目を実施。結果発表の後、作戦タイムを設け、歩く時やスキップをする時にも腕をしっかり振ることで足もよく動くようになる等のアドバイスを送る。1回目のタイムからどれだけ短縮できるか、班毎に目標を確認した後、2回目を実施。



・運動の時間を振り返り、皆でタイムを縮めるために工夫をし、全力を尽くして最後まで諦めずに取り組んでいた。コミュニケーションを取り合ってチームワークを大切にしながら、個人の意見を尊重し合って走順を決めたり意見交換ができていた。このように、オリンピックバリューはオリンピック競技ではなくても当てはまることが体験できた。次の座学の時間では自分の経験も交えながら、さらに掘り下げて一緒に考えていきたいと伝え、授業終了。

- **オリンピック**：長谷川 大悟 先生（陸上競技 三段跳）
【出場オリンピック／リオデジャネイロ2016大会】
- **期 日**：2024年9月10日(火)
- **ク ラ ス**：2年1組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・子供の頃は運動が苦手だったが、中学生から陸上競技に取り組み始め、高校2年生の時に三段跳に出会い、3年生の時にインターハイに出場したものの活躍できなかった。競技を辞めようとも思ったが、もっと続けてみたいという気持ちに気づき、大学でも三段跳に取り組んだ。オリンピックを目標にしてから出場するまでは長い時間が掛かったが、諦めずに続けることが大切だと感じている。何かにチャレンジする上で、才能や始める時期は関係ないということ覚えておいてほしい。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：日常生活にあるオリンピックバリューを振り返って考えてみよう。
 発表：エクセレンス：「テストに向けて一生懸命頑張る」「全力で取り組む」等
 フレンドシップ：「勉強も一緒に教え合う」「ミスした仲間を大丈夫だよと慰める」「信頼できる相手は大事」等
 リスペクト：「意見を否定せず尊重する」「相手の個性を認める」等



・座学の時間を振り返り、オリンピックバリューが皆の日常生活にも当てはまると感じられたと思う。友達とコミュニケーションを取ることや、勉強や掃除といった日常生活に真剣に取り組むこと等が、自分が成長する力になる。何かを始めたり、頑張ったりすることは才能や時期とは関係ないので、諦めずに続けることの大切さを覚えておいてほしい。運動と座学の時間で感じたことや考えたことを普段から意識しながら生活し、様々なことに挑戦し続け、自分の成長につなげてほしいと伝え、授業終了。

■集合写真

・2年1組



■記念品贈呈

・2年1組



■修了証贈呈

